

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 大川中 学校 学級数 6

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

自ら考え、進んで学び、生き生きと活動する生徒

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

低学力いわゆる授業が理解できなくても、困らない、焦らない子もいる現状があり、四則計算などでも理解できない生徒も実際にいる。学力の定着には、学校の授業に加えて家庭での復習が不可欠と考えます。

2 取組の位置付け

生徒指導面・教育課程推進面で各分掌・各学年が連携をとり 全校体制で推進している。

3 取組の内容

校内研究テーマを「コミュニケーション能力を高める学習活動の工夫」とし、言語活動の充実を切り込み口に教科指導をはじめとした全教育活動について見直しを進めている。

① 攻めの生徒指導の強化

生徒が活動する場や集団が生き生きと向上心をもっている状況が、生徒の伸びを促すことから、規範意識の高揚を含めた生活指導、生徒指導の機能を重視した学級・学年経営、協働共感を重視したふれあい活動を進めている。評価については生活満足度アンケート等で随時行っている。

② 教科指導における共通の取り組み

発表の仕方・聞き方など話し合い活動のルールを確立させ、各教科の各場面で意識している。また、意図的に学び合い活動や話し合い、言葉を使っでの表現活動を配置することを提起し、授業公開等を通して学校全体で取り組んでいる。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・「攻めの生徒指導」実践のため、5月初旬と11月に「学級生活・学校生活満足度アンケート」を実施し、現状分析、取り組みの改善につなげた。

(成果) → 生徒個々が置かれている現状について分析し、望ましい人間関係の醸成について、ピンポイントの取り組みが実施できた。学級の雰囲気により意欲的な方向に向き、授業や家庭学習の取り組み量の増加につながっている。

- ・教科指導における共通の指導事項を整理し、学級掲示や授業の約束として提示しながら実践を積み重ねた。

(成果) → 授業に臨む生徒側の準備として、授業に臨む意欲や宿題の取り組みが向上している。また、授業中のルールが確立してきたことから、授業時間の効率的な活用ができ、課題学習や思考時間の確保、スパイラルに既習事項を復習する時間もできるようになった。

- ・校内研究テーマ「コミュニケーション能力を高める学習活動を工夫」を念頭に置き、全教員の実践指導案の検討や公開授業研究を通して検証した。

(成果) → 10月までに授業実践とその指導案検討を全校をあげて取り組み、課題解決学習や学び合い学習、グループによる課題探求など、日常の授業に取り込むことを行い、11月の校内授業研で授業公開を行った。教職員の意識が変わり、授業づくりに工夫が見られることは生徒にも伝わり、アンケートでは授業がおもしろいと感じる生徒が増加した。

○ 教育課程検証の方法

- ・「学級生活・学校生活満足度アンケート」を5月と11月に実施した。集計結果については校内研修や職員会議で公表し、取り組みや実践についての指標としている。1・2年生については2月中にも実施する予定である。
- ・保護者による学校評価については1学期末に実施し、集計結果については2学期当初に公開済み。2学期末については現在集計中である。結果については学校だよりなどで職員による学校評価と2回分を併記して公開する予定である。
- ・教科によっては道教委発のチャレンジテスト等の活用を図りながら、学力の数値目標を確認して取り組んでいきたい。

